

もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう
木造 十一面観音立像

種 別	小松市指定文化財 彫刻
指定年月日	平成 15 年 11 月 3 日
所 在 地	波佐谷町

小松市波佐谷町にあった旧白山社に祀られていたもの。

旧白山社は大正 4 年に同町の磯前神社と合併され、本像は旧社殿に残されていた。その後、老朽化した社殿は取り壊され、平成 9 年よりその跡地に新たな安置所がつくられて、本像が納められている。

檜を用いた一木造りで、像高は約 41 cm、岩に見立てた台座の上に直立している。

右足の爪先が欠如しているのみで、遺存状態は良好である。肉身部（表に出た肌の部分）のみ金箔を貼ったもので、胸部と耳朶（耳たぶ）に一部が残っている。衲衣（まとっている衣）の部分と台座には濃茶の彩色が部分的に残っている。

特徴や作風から江戸初期（17 世紀）の地方仏師の作と考えられる。

高い芸術性を評価することはできないが、明治初年の神仏分離令で御神体としての仏像が多く破棄されたなか、当地方に残された白山信仰本地仏として、地域信仰史の上から重要な資料である。

